

人間科学部（人間科学科）履修案内

（2015年度入学者に適用）

1 教育目標

人間科学部は、「人間の心身と人間社会に対する多角的・総合的思考を涵養し、人間環境の質の向上と、健康で心豊かな生活を保障する社会の確立に貢献できる人材の育成」を教育研究上の目的としています。

具体的には卒業時に以下のような人材であることを期待しています。

1. 人間や社会および自然について豊かな教養を身につけ、さらに国際的な視野に立って物事を考えることができる能力を身につけている。
2. 自己の心身をよく認識し、それをさまざまな形で表現し、他者に伝えるコミュニケーション能力を身につけている。
3. 人間を「こころ」と「からだ」の両面から理解するとともに、人間が形成する「社会」の仕組みについて客観的な認識ができ、それらを多角的・総合的に捉える思考力を身につけている。
4. 「こころ」、「からだ」および「社会」をめぐる諸問題を主体的に発見し、その具体的な解決に向けてさまざまな提案ができる発信力を身につけている。
5. 自己と他者とのつながりを感じ、常に社会的弱者へ温かいまなざしが向けられる至誠をもち、健康で心豊かな社会の確立のために、他者と協力しながら問題解決に当たる行動力を有している。

2 カリキュラムの特色

人間科学はさまざまな分野の学問から成り立っている学際的な領域です。人間科学部のカリキュラムは、そうした学際性を強く意識したカリキュラム体系になっています。

1. 1学部1学科とし、そのもとに心理発達、スポーツ健康および人間社会の3コースを置いている。学生は多角的・総合的思考ができるように、コースの垣根を越えて、どのコースの開講科目も履修できる。
2. 全学共通の教養教育および外国語科目と人間科学科の専攻科目とを有機的に関連させることにより、豊かな教養と国最適視野に立った思考力及び専門的な洞察力が相乗的に身に付くように編成されている。
3. 大学における初年次教育である1年次前学期のFYSに続き、1年次後学期に人間科学基礎ゼミナールを配置し、教養教育から専門教育へのスムーズな移行を促進している。
4. 人間科学科の専攻科目については、1年次必修の「人間科学概論」や「情報処理」などの基礎科目から基幹科目さらに展開科目へと年次進行にしたがって体系的に学ぶことができるように配置されている。
5. 個人の表現能力、発信力およびコミュニケーション能力を高めるため、本学科では少人数双方向教育を重視している。そのために1年次のFYS、人間科学基礎ゼミナールに引き続き、2年次に人間科学専門ゼミナール および3年次に専門ゼミナールを、4年次に「卒業研究」を必修科目としている。特に「卒業研究」では、専門教育の集大成として、自らが設定した卒業研究の企画および問題解決のための方法、結果の分析などが求められる。

基礎科目

基礎科目は、大学教育への導入と2年次以降の<基幹科目><展開科目>への導入として配置されている科目群です。1年次に履修しなければなりません。2年次以降は、専門教育を体系的に学修するうえで必要な基本的思考様式と基礎的な知識を修得することが目的です。以下に、必修科目について紹介します。

「人間科学概論」(第1セメスター)(必修：2単位)

人間科学概論は、「人間科学とは何か」について、「こころ」、「からだ」、「社会」の視点から概説する。本科目はオムニバス形式の授業で、「人間科学部において何をどのように学ぶのか」の指針となります。また「人間科学概論」とは、同じ<基礎科目>に配置している選択必修科目の「人間形成論」「人間関係論」を両方履修することにより、人間科学部での学修内容を明確にし、総合的・学際的な理解への足がかりとなります。

「情報処理」(第1セメスター) / 「情報処理」(第2セメスター)(必修：各2単位)

50名程度の習熟度別クラス編成で授業が行われます。情報処理については、すでに高等学校で学んできているはずですが、得意な人と不得意な人がいるかも知れません。今後、パソコンの操作を含む情報処理の技能はますます重要になってきますので、積極的に取り組む必要があります。ワード、エクセル、インターネット関連が中心となりますが、著作権などについても学びます。

「人間科学基礎ゼミナール」(第2 Semester)(必修:2単位)

学問への取り組み姿勢,専門教育での学修方法などについて学ぶ導入教育の授業です。少人数のクラス編成で、「読む」、「書く」、「話す」、「聞く」、「議論する」などの機会を多くもち、自己表現力と対人能力を向上させることを目指します。この科目は、第2 Semester後半でのコース選択や「人間科学専門ゼミナール」(2年次配当)の選択に際しての手助けとなります。また大学生活全般に関して自由に相談できる場でもあります。履修希望者が多いゼミでは、何らかの方法で選考が行われます。「人間科学基礎ゼミナール」の多くは、第1 Semesterの「FYS」と同じ曜日・時限に開講されますが、いろいろな角度から自由に選択してください。

基幹科目

基幹科目は、<基礎科目>の理解のうえに立ち、より専門性の高い<展開科目>を履修するにあたってそれぞれの学問分野の基本的な知識をより具体的に理解することを目的とした科目群です。主に2年次に配当されていますが、一部、1年次に配当されている科目もありますので注意してください。

なお、「心理発達コース」を選択した人においては、「心理学基礎実験(含む心理検査) ・ 」 「心理学研究法 ・ 」(ともに2年次配当)は必修科目となります。「心理学基礎実験(含む心理検査) ・ 」では、少人数のグループに分かれて、特定のテーマのもとに、基礎的な心理学実験(心理検査)を行い、人間の心理特性や研究方法について体験的に学びます。「心理学研究法 ・ 」では、心理学の研究を進めるに際しての研究の組み立て方、測定法または検査法などの基礎的な研究方法、データ処理法などについて学びます。これらの科目はお互いに補完しあうものです。

「スポーツ健康コース」を選択した人においては、「ヒューマンマインド学」が必修科目となります。

「人間社会コース」を選択した人においては、「社会調査論 ・ 」が必修科目となります。

展開科目

展開科目は、[専攻科目]の中で、比較的応用的で実践的な科目は主に<展開科目>として、2年次・3年次・4年次に配当されています。

実験・実習、フィールドワークを含む科目

<基幹科目>の「心理学基礎実験(含む心理検査) ・ 」や「フィールドワーク入門 ・ 」もそうですが、<展開科目>ではフィールドワークを行う「社会調査法(含む実習) A ・ A , B ・ B 」など、実験・実習、フィールドワークを含む科目を開講しています。実験・実習、フィールドワークを通して、解決すべき問題について、仮説の立て方、実証方法、データ処理を含む分析方法等を修得することがねらいです。その際、1年次に修得した<基礎科目>の「情報処理 ・ 」のスキルが役立ちます。

「キャリア特別講義」と「人間科学特別講義」

担当教員による講義に、必要に応じて学外または学内の講師による講演を加えて行われる講義科目です。講演の前後の週に、講演内容に関連する予習と復習、あるいはディスカッションなどを行います。「キャリア特別講義」では、学問、スポーツ、そのほか各界で活躍中の、キャリアをもったゲストの講演を通して、在学中の学びや将来に対する指針を得ることが期待されます。また、「人間科学特別講義」では、地元横浜の経営者や起業家、実務家の方々をゲストに、地域社会の課題や新たな働き方などについて紹介します。人間科学の奥行きや深さや楽しさを体感することが期待されます。

「外国語文献講読 ・ ・ 」

外国語(主に英語)のテキストや雑誌などを和訳しながら読んでいきます。少人数のクラス編成とし、場合によってはディスカッションなども行います。

総合演習

「人間科学専門ゼミナール」(2年次配当),「人間科学専門ゼミナール」(3年次配当),および「卒業研究」(4年次配当)で構成されています。これら3つの科目は必修科目です。

「人間科学専門ゼミナール」と「人間科学専門ゼミナール」(必修：通年4単位)

1年次で<基礎科目>や<共通科目>を学びながら、自分がどのような分野に関心があり、自分がどのような道に進みたいのかを考えてください。そして自分の関心に近い分野の研究テーマを掲げている教員のゼミナールに所属するのが一般的です。

「人間科学専門ゼミナール」と「人間科学専門ゼミナール」は、原則として同じ教員の指導のもとで関心のあるテーマについて研究を行うための場です。そこでは教員および他のゼミ生と一緒に、研究テーマについて問題意識を深めていくとともに、さまざまな学修上および学生生活上の問題などについても話し合う機会がもたれます。多くのゼミナールで合宿研修等が実施される予定です。なお、履修希望者が多いゼミでは、何らかの方法で選考が行われます。

「卒業研究」(必修：通年4単位)

「卒業研究」では「人間科学専門ゼミナール」と「人間科学専門ゼミナール」で追究した研究テーマについてさらに深めていきます。「卒業研究」は、4年間の学びの集大成として、研究の満足感と成果を得ることができますので、専門ゼミナール・専門ゼミナール・卒業研究を段階的に履修することをすすめます。ぜひチャレンジしてください。なお、「卒業研究」の方針については、各担当者のシラバスを参照してください。

共通教養科目

横浜キャンパス全学部共通に開講する[共通教養科目]は、幅広い教養と問題解決に積極的にチャレンジする知の技法を修得することを目的として、<共通基盤科目>、<共通テーマ科目>から編成されています。人間科学部では、卒業要件単位として、[共通教養科目]を32単位以上修得しなければなりません。

「FYS (First Year Seminar)」(第1セメスター)(必修：2単位)

みなさんが大学生活へスムーズに適応できるように、全学共通のテキストを用いて、大学生活に必要なスキル(student skill)と学修に必要なスキル(study skill)の修得を中心として、少人数で行うゼミナール形式の科目です。履修するクラスは授業開始前に指定されます。なお、前学期に単位を修得できなかった場合は、後学期に開講される再履修クラスの「FYS」を受講しなければなりません。もし再履修クラスの「FYS」が集中講義形式になる場合には、かなりハードなスケジュールになりますので、前学期にきちんと履修しておくこと。

外国語科目(英語)(必修：8単位)

「英語コミュニケーション(Listening) / 英語コミュニケーション(Speaking)」(第1セメスター)

「英語コミュニケーション(Listening) / 英語コミュニケーション(Speaking)」(第2セメスター)

「英語コミュニケーション(Reading) / 英語コミュニケーション(Writing)」(第3セメスター)

「英語コミュニケーション(Reading) / 英語コミュニケーション(Writing)」(第4セメスター)

本学では意欲的に外国語を学べるように複数の外国語(英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語、韓国語)を開講していますが、人間科学部では英語(合計8単位)が必修です。今後、コミュニケーションツールとしての英語はますます重要性を増していきます。国際スポーツイベントのサービスなどでも英語は今や必須です。なお、国際的な舞台で活躍するためにも、ほかの外国語の修得にも積極的にチャレンジしてください。詳しくは、外国語科目の履修案内のページを熟読してください。

共通基盤科目(「FYS」・「外国語科目」以外の科目)

共通基盤科目は「FYS」「外国語科目」のほか、人文の分野、社会の分野、自然の分野、人間形成の分野から構成されており、社会人として幅広い知識と教養を身につけるためにさまざまな授業が開講されています。なお、人間科学部では、人文・社会・自然の各分野から4単位以上の修得が必須であり、かつ、人間形成の分野の「健康科学とスポーツ」(各1単位)が必修科目となっています。様々な分野の科目を履修し、幅広い分野にわたる教養や基礎的学力を身につけるとともに、からだを動かして、心身ともにしなやかな人間を目指して欲しいと思います。

共通テーマ科目

共通テーマ科目は、現代の諸課題を扱う既存の学問分野を越境する性格をもつ科目で、現代社会における市民の生存、生活、活動にかかわる諸課題を取上げ、既存の学問分野に収まりきらない学際的な科目として、5つのサブテーマから構成されています。なお、人間科学部では、「共通テーマ科目」について2単位の修得が必須です。

3 履修要領

履修とは、時間割を確認のうえ、みなさん自身が授業科目を決定し、登録（届け出）することです。人間科学部では、「こころ」、「からだ」、「社会」の各分野の垣根をできるだけ低くし、分野を超えて自由に科目を選択し履修することができます。

しかし、ただ漫然と履修科目を選択してはなりません。「こころ」、「からだ」、「社会」の各分野を、みなさん自身の中で融合させ総合することが求められます。人間科学部ではそのための場所と材料を準備してお手伝いはしますが、主役はみなさん自身です。このことは常に意識しておく必要があります。以下に、履修にあたってのポイントをいくつか記します。

(1) 先ず、必ず修得しなければならない必修科目を履修する必要があります。第1セメスターでは、[共通教養科目]の「FYS」、「英語コミュニケーション(Listening) / 英語コミュニケーション(Speaking) 」および「健康科学とスポーツ」、また、[専攻科目]の「人間科学概論」および「情報処理」を履修します。第2セメスターでは、[共通教養科目]の「英語コミュニケーション(Listening) / 英語コミュニケーション(Speaking) 」および「健康科学とスポーツ」、また[専攻科目]の「人間科学基礎ゼミナール」および「情報処理」を履修します。クラス（担当者）が予め決まっている科目もありますし、クラス（担当者）を決定する方法が別な科目もあるため、ガイダンスや学内の掲示板や『授業時間割表』に特に留意してください。

(2) 次に、[専攻科目]の<基礎科目>にある選択必修科目を履修します。<基礎科目>の卒業要件を満たすためには全ての科目を履修する必要はありませんが、第1セメスターの「人間形成論」と「人間関係論」はどちらか一方を必ず修得しなければなりません。（できれば両方の科目を履修することが望まれます。）

また、第2セメスターでは、5つの選択必修科目「健康学概論」「心理学概論」「教育学概論」「社会学概論」「社会福祉学概論」の中から2科目を履修し修得しなければなりません。

(3) そのほかに1年次から、自分の興味・関心、および卒業後の進路等を常に意識し、〔卒業要件〕を踏まえながら[共通科目]や[専攻科目]からバランスよく履修科目の選択をするとよいでしょう。

尚、[共通教養科目]にある各分野の科目は、キャリア形成科目を除き全年次対象に配当されていますが、3、4年次は[専攻科目]の学修や就職活動でかなり忙しくなりますので、できれば1、2年次の間に履修することです。また、できるだけ幅広く異なった分野の科目を選択することをおすすめします。

(4) 2年次の必修科目は、第3セメスターでは[共通教養科目]の「英語コミュニケーション(Reading) / 英語コミュニケーション(Writing)」、第4セメスターでは、「英語コミュニケーション(Reading) / 英語コミュニケーション(Writing)」です。また、[専攻科目]については「人間科学専門ゼミナール」が必修科目です。

「人間科学専門ゼミナール」の選択に際しては、1年次の10月に各教員のゼミナールの紹介を兼ねた『ゼミナール要項』が配付され、12月頃に何度かゼミナールの説明会が開催されます。その『ゼミナール要項』を熟読し、また必ず説明会に参加して希望のゼミナールを選択することが必要になります。申込み・選考は、1年次の1月に行われる予定です。応募者が多いゼミナールでは何らかの方法で選考が行われることがあります。もし選考にもれた場合には、二次募集を行う他のゼミナールに再度応募する必要がありますので、二次募集に関する情報を学内の掲示板等で確認してください。

「人間科学専門ゼミナール」(2年次)と「人間科学専門ゼミナール」(3年次)は必修科目です。これらを履修しないと卒業できないので、期間内にきちんと申し込みをしてください。

「人間科学専門ゼミナール」(3年次)は原則として「人間科学専門ゼミナール」(2年次)と同一の教員のゼミナールに所属することが望ましいですが、場合によっては変更することもできます。その場合は、受け入れ先のゼミナールの担当教員の承諾を得るとともに、元のゼミナールの担当教員に連絡をしてください。もし困った場合には、学部大学院課の窓口で相談してください。

(5) 人間科学部の特色の一つとして、実験・実習、フィールドワークを含む科目があります。人間科学部は実践的な学修を重視する学部です。高校時代までに身につけた机に向かったの勉強も大事ですが、行動と実践を伴う科目もぜひ積極的に履修してください。

(6) 4年次に開講する「卒業研究」(必修科目)は学生のみなさんが、専門教育の集大成として履修することを期待しています。特に大学院(他大学を含め)への進学を考えている人は、将来を見据えて履修に臨んでください。

4 履修要件

〔履修要件〕とは、授業科目を履修するにあたっての決まりごとのことです。「教育課程表」の脚注ページにある〔履修要件〕を必ず確認してください。

5 コース制

人間科学部では、「心理発達コース」、「スポーツ健康コース」、「人間社会コース」のいずれかのコースを選択し、登録しなければなりません。コースの選択にあたっては、1年次の11月にガイダンスを開催しますので、必ず出席してください。それらを参考にして、卒業後の進路を含め、自分の関心がどこにあるのかをできるだけ意識化して固めておくことが重要です。

人間科学部ではコース制をとっています。そのため必ずどれかのコースに所属する必要があります。1年次11月にガイダンスを開く予定ですので、それに必ず出席し、期間内にきちんと登録を行ってください。

なお、コースの登録と、「人間科学専門ゼミナール」の決定とは密接に関係します。「人間科学専門ゼミナール」の選択にあたっては、多くの場合、直前に登録を完了したコースに所属する担当教員が開講するゼミナールを履修することになると思います。教員が所属するコースについては、『履修要覧』の「人間科学部人間科学科 教育課程表」で確認することができます。

また、特別な事情が生じた場合に限り、3年次および4年次当初に、コース変更が認められます。(「教育課程表」の脚注ページにある〔コース制〕を必ず確認してください。)

(人間科学部の構成)

人間科学部 - 人間科学科

心理発達コース
スポーツ健康コース
人間社会コース

心理発達コース

心理発達コースでは、心理・発達・教育の視点から、人間のこころの発達や特性について学びます。まず心身両面から自己を再確認し、それを他者理解、対人能力の向上へとつなげていきます。基礎的学修に加え、実験・実習を組み入れ、さらに犯罪被害者や災害被害者の心理、高齢者や障害者の心理、健康心理学など、応用的な学修にも力を入れています。なお、この心理発達コースを選択した場合、「心理学基礎実験(含む心理検査)・」と「心理学研究法・」の単位を必ず修得する必要があるので注意してください。また、「感覚知覚心理学・」、「生涯発達心理学・」、および「臨床心理学・」は、履修することが望ましい授業科目です。

スポーツ健康コース

スポーツ健康コースでは、「健康に生きる力」「人を魅(ひ)きつけ、導く力」「スポーツ文化を支え、発信する力」の3つの力を身に付けることを目指し、それぞれの力に即した科目を配置しています。

「健康に生きる力」:健康の基本概念やその知識を活用した健康管理などについて体験的に学修したり、身体構造の理解やテーピングやリハビリテーションなどの実践によりからだの機能にかかわる知識の習熟を図ったりします。

「人を魅きつけ、導く力」:スポーツ実践者として道徳・モラルや倫理を再考し、人を導く魅力を身に付けそれを伝える実践力を備えます。また、論理的思考とその活用を体験的に学修し、人を魅きつけ導く力を身に付けます。

「スポーツ文化を支え、発信する力」:スポーツの本質や社会におけるスポーツの位置づけを学修し、スポーツを多角的に捉えられるようにします。また、スポーツを振興する立場からスポーツの“産”と“官”の両面を理解したり、グローバル化に対応する実践的な言語力を身に付けます。なお、スポーツ健康コースを選択した場合、「ヒューマンマインド学」の単位を必ず修得する必要があるので注意してください。

人間社会コース

人間社会コースでは、「こころ」と「からだ」をもつ人間が形成する「社会」という軸に焦点をおき、「社会的存在」としての「人間」の側面に着眼して学修していきます。「人間」と「社会」の相互形成や多様化していく現代社会および地域・国際社会についての構造や実態を理解するとともに、調査実習を通して地域社会を調査し、分析することにも重点をおき、人と社会との関わりを創造し、発信する力を養成します。

なお、人間社会コースを選択した場合、「社会調査論」の単位を修得する必要があります。

6 履修に関する年間スケジュール

1年次	4月	各種ガイダンス 履修科目登録（第1・2セメスター科目の登録）
	6月	「人間科学基礎ゼミナール」説明会・履修申込み・決定（二次募集・決定）
	9月	履修科目登録（第2セメスター科目の追加・削除・変更）
11月		コースのガイダンス 「人間科学専門ゼミナール」募集要項配付
12月		「人間科学専門ゼミナール」説明会
1月		「人間科学専門ゼミナール」履修申込み・決定 同 二次募集・決定
2年次	4月	コース登録

7 学外単位認定制度

〔学外単位認定制度〕とは、海外語学研修のプログラムを修了した、各種の検定試験に合格した、横浜市内の他大学の授業科目の単位を修得した場合に、人間科学部のカリキュラムに応じた単位として認定する制度です。「教育課程表」の脚注ページにある〔学外単位認定制度〕を必ず確認してください。また、詳細は「学則および諸規程」にある各制度に関する規程にて紹介されています。

8 卒業要件

〔卒業要件〕とは、卒業するために必要な決まりごとのことです。この決まりごとを満たさなければ卒業することはできません。「教育課程表」の脚注ページにある〔卒業要件〕を必ず確認してください。

モデル（心理発達コース：心理福祉）

将来福祉職や心理職を希望する人や大学院の進学を目指す人のための履修モデルです。学校現場をめぐる様々な難問を背景に「臨床心理士」、「学校心理士」をはじめとする各種心理士の育成は急務です（ただしこれらの資格を取得するには大学院へ進学することが必要です）。また、人災、天災後による被害者のこころのケアのためにも各種心理士への社会的ニーズは高まっています。在学中の関係単位取得は、これら専門職へのステップとなります。また視能訓練士、眼鏡専門士など医療福祉関係の専門職へのステップにもなります。

基礎科目	・人間科学概論 ・人間形成論 ・人間関係論 ・(健康学概論) ・心理学概論 ・教育学概論 ・(社会学概論) ・社会福祉学概論 ・人間科学基礎ゼミナール ・情報処理 ・
基幹科目	・ライフデザインの心理学 ・感覚知覚心理学 ・ ・認知心理学 ・生涯発達心理学 ・ ・臨床心理学 ・ ・人格心理学 ・犯罪心理学 ・心理学基礎実験(含む心理検査) ・ ・心理学研究法 ・ ・心理統計法 ・ ・スポーツ心理学 ・公衆衛生学 ・人口地理学 ・現代社会心理学 ・家族社会学
展開科目	・環境心理学 ・色彩心理学 ・児童心理学 ・青年心理学 ・家族心理学 ・臨床発達心理学 ・高齢者障害者福祉心理学 ・心理療法 ・ ・健康心理学 ・ジェンダー心理学 ・コミュニティー心理学 ・組織心理学 ・被害者心理学 ・精神医学 ・脳損傷リハビリテーション ・認知神経科学 ・ボランティア学習論 ・実践メディア論 ・ ・プログラミング演習 ・人間科学特別講義 ・高齢社会論 ・身体表現法 ・児童福祉論 ・高齢者福祉論 ・障害者福祉論 ・地域福祉論 ・ホスピタリティ論
総合演習	・人間科学専門ゼミナール ・ ・卒業研究

モデル（心理発達コース：人間発達）

人間の発達環境を、こころや身体と関連させながら総合的に理解し、将来、幅広く人に関わる職業を目指す人の履修モデルです。またこのモデルでは、将来の研究職、行政職、社会科教諭などの育成を目指します。

基礎科目	・人間科学概論 ・(人間形成論) ・人間関係論 ・(健康学概論) ・心理学概論 ・教育学概論 ・(社会学概論) ・社会福祉学概論 ・人間科学基礎ゼミナール ・情報処理 ・
基幹科目	・ライフデザインの心理学 ・生涯発達心理学 ・ ・心理学基礎実験(含む心理検査) ・ ・心理学研究法 ・ ・心理統計法 ・ ・教育人間学 ・教育社会学 ・異文化間教育学 ・スポーツ心理学 ・公衆衛生学 ・家族社会学 ・現代社会人類学
展開科目	・児童心理学 ・青年心理学 ・家族心理学 ・臨床発達心理学 ・高齢者障害者福祉心理学 ・コミュニティー心理学 ・児童福祉論 ・高齢者福祉論 ・障害者福祉論 ・教育哲学 ・教育行政学 ・ボランティア学習論 ・教育組織論 ・実践メディア論 ・ ・プログラミング演習 ・地域情報論 ・生涯スポーツ論 ・人間科学特別講義 ・法女性学 ・市民社会論 ・スポーツ文化 ・スポーツ哲学 ・身体表現法 ・ロールモデル論 ・ホスピタリティ論
総合演習	・人間科学専門ゼミナール ・ ・卒業研究

モデル（スポーツ健康コース：スポーツ振興者志望モデル）

現代社会の構造や事象を「スポーツ」を切り口や材料として理解すること、またスポーツ実践者を科学的に支援するための基礎的発展的な知識を修得することにより、企業人・技術者としての資質を身につけることを目指すモデルです。スポーツ関連企業、レジャー関連産業領域をはじめとする一般企業はもとより、スポーツの普及振興にかかわる行政団体、NPOや財団法人といった公益団体などへの就職を目指します。

基礎科目	・人間科学概論 ・人間形成論 ・人間関係論 ・健康学概論 ・心理学概論 ・社会学概論 ・社会福祉学概論 ・人間科学基礎ゼミナール ・情報処理 ・
------	---

基幹科目	・ヒューマンマインド学 ・スポーツ学概論 ・スポーツ社会学 ・統計と調査 ・公衆衛生学 ・スポーツマネジメント ・人体生理学 ・身体計測と情報処理 ・解剖学 ・スポーツ心理学 ・社会調査論 ・人口地理学 ・現代社会論 ・現代社会心理学
展開科目	・スポーツ哲学 ・スポーツ文化 ・生涯スポーツ論 ・ロールモデル論 ・スポーツ産業論 ・スポーツの行政と公共政策 ・スポーツと経済 ・健康システム管理学 ・レジャーと産業 ・キャリア特別講義 ・市民メディア論 ・実践メディア論 ・ ・バイオメカニクス ・身体科学実験実習 ・身体運動の計算科学とシミュレーション ・実践英語 ・地域社会学 ・社会調査法(含む実習)A ・A ・B ・B ・応用社会心理学 ・社会統計学 ・国際社会論 ・組織心理学 ・現代社会論 ・コミュニティー心理学
総合演習	・人間科学専門ゼミナール ・卒業研究

他学科専攻科目にあげた科目は、履修制限がある科目などもあるため、他学部学科、コースなどとも調整が必要である。

モデル (スポーツ健康コース：企業のリーダー・スポーツ教育者養成モデル)

学生時代に培われたリーダーシップ、フォロアーシップ等、行動力を十分に活かし、企画・運営に携わり企業内においてもリーダーとして活躍することを目指す人のためのモデルです。また、地方自治体で警察官や消防士等の職業を選択しようとする人や、スポーツを指導する学校や社会教育関係の職業を目指す人のためのモデルでもあります。

所定の教職に関する科目および教科に関する単位を取得し、介護、教育実習等を経て、保健体育教諭の資格を取得することができます。

基礎科目	・人間科学概論 ・人間形成論 ・人間関係論 ・健康学概論 ・心理学概論 ・教育学概論 ・社会学概論 ・社会福祉学概論 ・人間科学基礎ゼミナール ・情報処理 ・
基幹科目	・ヒューマンマインド学 ・スポーツ学概論 ・スポーツ社会学 ・健康管理学 ・栄養管理学 ・人体生理学 ・解剖学 ・公衆衛生学 ・スポーツ心理学 ・スポーツマネジメント ・身体計測と情報処理 ・統計と調査 ・ジェンダー研究 ・教育社会学 ・認知心理学 ・現代社会心理学 ・生涯発達心理学 ・ ・教育人間学 ・現代文化人類学 ・人格心理学 ・異文化間教育学
展開科目	・スポーツ哲学 ・スポーツ文化 ・ロールモデル論 ・生涯スポーツ論 ・救急法 ・トレーナー実習 ・コーチング論 ・コーチング心理学 ・運動処方論 ・保健体育専門教養 ・ ・保健体育指導実践 ・スポーツ実技種目 ・トレーニング実技 ・野外実習 ・健康システム管理学 ・スポーツ産業論 ・スポーツの行政と公共政策 ・スポーツ医学 ・バイオメカニクス ・学校保健 ・実践英語 ・身体運動の計算科学とシミュレーション ・児童心理学 ・児童福祉論 ・臨床発達心理学 ・青年心理学 ・健康心理学 ・高齢社会論 ・教育哲学 ・ボランティア学習論 ・障害者福祉論 ・高齢者福祉論 ・地域福祉論 ・地域社会学
総合演習	・人間科学専門ゼミナール ・卒業研究

モデル (人間社会コース：社会理論学修・研究)

人間社会についての経験的・実証的知見を踏まえた理論・方法論を学ぶモデルです。このモデルでは、将来の研究職、行政職、社会科教諭などの育成を目指します。

基礎科目	・人間科学概論 ・人間形成論 ・(人間関係論) ・(健康学概論) ・(心理学概論) ・(教育学概論) ・社会学概論 ・社会福祉学概論 ・人間科学基礎ゼミナール ・情報処理 ・
基幹科目	・現代社会論 ・現代社会心理学 ・家族社会学 ・ジェンダー研究 ・社会統計学 ・ ・社会調査論 ・教育人間学 ・生涯発達心理学 ・犯罪心理学 ・教育社会学 ・スポーツ心理学
展開科目	・異文化社会論 ・地域社会学 ・市民社会論 ・高齢社会論 ・法女性学 ・市民社会論 ・横浜学 ・環境計画論 ・コミュニティー心理学 ・家族心理学 ・青年心理学 ・児童心理学 ・高齢者福祉論 ・地域福祉論 ・児童福祉論 ・障害者福祉論 ・ロールモデル論 ・現代メディア論 ・市民メディア論 ・国際社会論 ・形質人類学
総合演習	・人間科学専門ゼミナール ・卒業研究

モデル（人間社会コース：地域社会学修・研究）

人間社会の具体的な展開の場である「地域社会」をフィールドとして、その構造や諸課題について調査実習などを取り入れて実証的に学んでいくモデルです。このモデルでは、将来の社会調査士、マスコミ関係職、福祉関係職、気象予報士、環境計画・防災関係職などの育成を目指します。

基礎科目	<ul style="list-style-type: none"> ・人間科学概論 ・(人間形成論) ・人間関係論 ・(健康学概論) ・(心理学概論) ・(教育学概論) ・社会学概論 ・社会福祉学概論 ・人間科学基礎ゼミナール ・情報処理 ・ ・フィールドワーク入門
基幹科目	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会論 ・ 家族社会学 ・ 国際社会論 ・ 人口地理学 ・ 景観地理学 ・データ分析法 ・ 社会統計学 ・ 社会調査論 ・ スポーツ社会学 ・フィールドワーク入門 ・ 教育社会学 ・ 犯罪心理学 ・ 生涯発達心理学 ・
展開科目	<ul style="list-style-type: none"> ・現代文化人類学 ・ 地域社会学 ・ 地域情報論 ・ 環境社会論 ・ 産業地理学 ・現代メディア論 ・ 市民メディア論 ・ 環境社会論 ・ 横浜学 ・ ・ ・ ・社会調査法(含む実習) A ・ A ・ B ・ B ・ 環境計画論 ・ 防災社会論 ・ 気象学 ・臨床発達心理学 ・ 高齢者障害者心理学 ・ 高齢者福祉論 ・ 地域福祉論 ・ 高齢社会論 ・世界地誌 ・ ホスピタリティ論 ・ 異文化社会論
総合演習	<ul style="list-style-type: none"> ・人間科学専門ゼミナール ・ 卒業研究

10 履修系統図

人間科学部は学部の教育方針として「12の力」を策定し、これに基づきカリキュラムの検証を行い、履修系統図を作成しました。

これは、人間科学部の教育方針(身につく力)【対人関係力・自己管理力・批判的思考力】を共通の目標とし、3つのコースがそれぞれ3つの教育方針を策定し、当該科目を履修することによって“どんな力が身に付くか”という視点で図化したものです。前述の「履修モデル」や「教育課程表」と比較しながら、みなさんの履修計画に役立ててください。(次頁)

人間科学部人間科学科 履修系統図

コース	身につく力	1年次前学期	1年次後学期	2年次前学期	2年次後学期	3年次前学期	3年次後学期	4年次前学期	4年次後学期
学部共通	対人関係力 自己管理力 批判的思考力	人間科学概論	健康学概論						
		人間形成論	心理学概論						
		人間関係論	教育学概論						
			社会学概論						
			社会福祉学概論						
		情報処理	情報処理						
			人間科学基礎ゼミナール	人間科学専門ゼミナール	人間科学専門ゼミナール	卒業研究			
		人間科学特別講義	ホスピタリティ論	実践メディア論	障害者福祉論	高齢者福祉論	地域福祉論	外国語文献講読	
				プログラミング演習	実践メディア論	外国語文献講読	外国語文献講読		
				児童福祉論					
心理発達	認知と行動を理解する力			心理学基礎実験	心理学基礎実験	認知神経科学			
				感覚知覚心理学	感覚知覚心理学	高齢者障害者福祉心理学	色彩心理学		
					認知心理学				
				心理学研究法	心理学研究法				
				心理統計法	心理統計法				
	成長発達を支援する力		ライフデザインの心理学	生涯発達心理学	生涯発達心理学	青年心理学			
				児童心理学	臨床発達心理学	脳損傷リハビリテーション			
				犯罪心理学	ジェンダー心理学		被害者心理学		
				ボランティア学習論	教育人間学	教育哲学			
				異文化間教育学	教育社会学				
豊かな人間関係を築く力			臨床心理学	臨床心理学	精神医学				
			人格心理学	心理療法	心理療法				
			環境心理学	健康心理学	コミュニティ心理学				
					組織心理学				
人間社会	社会の構造と実態を理解する力			現代社会論	現代社会論	異文化社会論(アフリカ)	国際社会論(北米・ヨーロッパ)		
				ジェンダー研究	現代社会心理学	地域情報論	異文化社会論(アジア)		
				国際社会論(アジア)	現代文化人類学		法女性学		
				家族社会学	世界地誌				
				形質人類学					
	地域社会を調査し、分析する力	社会調査論	社会調査論	データ分析法	データ分析法	社会調査法(含む実習)A	社会調査法(含む実習)A		
				社会統計学	社会統計学	社会調査法(含む実習)B	社会調査法(含む実習)B		
				人口地理学	景観地理学	横浜学	横浜学		
						横浜学	横浜学		
						産業地理学	地域社会学		
人と社会との関わりを創造し、発信する力		フィールドワーク入門		地域社会貢献論	環境計画論	環境社会論			
			実践メディア論	フィールドワーク入門	防災社会論	高齢社会論			
				実践メディア論	市民社会論	気象学			
						現代メディア論			
						市民メディア論			
スポーツ健康	健康に生きる力		健康学概論	人体生理学	解剖学	機能解剖学実習	トレーナー実習		
					バイオメカニクス				
		(健康科学とスポーツ)	(健康科学とスポーツ)	栄養管理学	スポーツ医学	睡眠と生体リズム	健康管理システム論		
				学校保健	運動処方論	トレーニング実技			
					公衆衛生学				
	人を魅きつけ、導く力			ロールモデル論	スポーツ心理学	保健体育専門教養	保健体育専門教養		
				ヒューマンマインド学		保健体育指導実践	保健体育指導実践		
						コーチング心理学	コーチング論		
				統計と調査	身体計測と情報処理				
						身体科学実験実習	身体運動の計算科学とシミュレーション		
スポーツ文化を支え、発信する力	スポーツ哲学	スポーツ社会学	スポーツ実践	スポーツ実践	スポーツ実践	スポーツ実践			
	ライフアカデミックスキル		生涯スポーツ論						
	スポーツ実技種目(球技)	スポーツ実技種目(球技)	野外実習(サマー)	野外実習(ウィンター)	スポーツの行政と公共政策	実践英語			
	スポーツ実技種目(球技)	スポーツ実技種目(球技)	スポーツ実技種目(球技)	スポーツ実技種目(球技)		スポーツと経済			
			スポーツ実技種目(器械運動)	スポーツ実技種目(器械運動)					
			スポーツ実技種目(陸上競技)	スポーツ実技種目(陸上競技)					
			スポーツ実技種目(水泳)	スポーツ実技種目(水泳)					
			スポーツ実技種目(武道)	スポーツ実技種目(武道)					
			スポーツ実技種目(ダンス)	スポーツ実技種目(ダンス)					
			スポーツ産業論	スポーツマネジメント					